



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

呼吸器内科

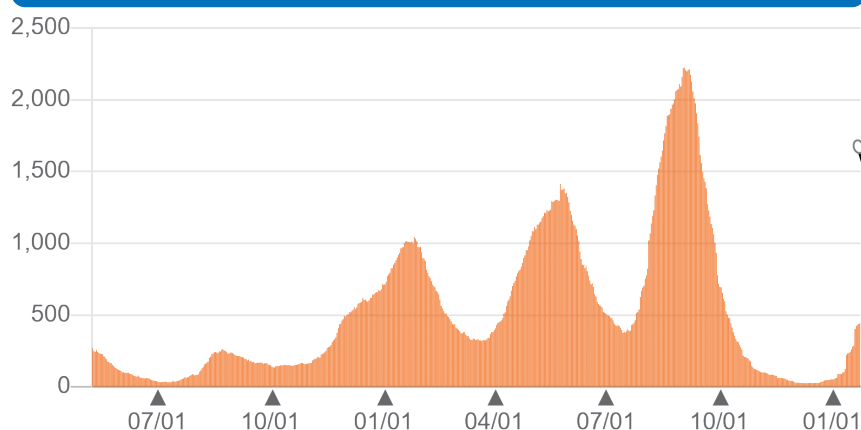
新型コロナウイルス感染症(COVID-19) ～重症化が生死の分かれ目～

2019年12月、中国武漢で謎のウイルス感染症の流行が初めて報告され、2020年1月には全世界に広まりました。日本では2020年1月ダイヤモンドプリンセス号の船内での集団感染が起り、時期を同じくして日本中に蔓延し、2020年2月にこの謎のウイルス感染症はCOVID-19感染症と命名されました。当初は治療法がなく、重症患者は人工呼吸器やECMOを使用せざるを得ない状況となり、多くの方が命を落とされました。みなさんの身近な親族、友人、知人にもこの病に感染した方はいらっしゃると思います。しかし、抗ウイルス薬であるレムデシベル、ステロイド薬のデキサメサゾン、免疫機能調整薬のバリシチニブなどこれまで他の疾患で使用していた既存薬の有効性が確立したこと、およびネーザルハイフロー治療の普及により、救命できる患者が明らかに増えました。

2021年夏には第5波に見舞われ、その原因ウイルスはデルタ株と命名され、それまで若年者には感染しにくいと思われていたものが、若年者間で流行し大問題となりました。一方、第5波では高齢者患者数がそれほど伸びなかったことは朗報です。第5波直前に始まったワクチン接種の効果がみられたと推測されています。第5波で終焉するものと思われていましたが、12月からオミクロン株の流行が始まり、日本でも市中感染やクラスターが確認されました。この株はこれまでのものと比較して、人にうつりやすいが、重症化はしにくいといわれています。しかし、患者さんが激増すれば、重症患者の数も増えてしまいます。最近では重症化を予防することが期待される経口薬(モルヌピラビル)の使用が承認されました。この薬により第6波がきても重症患者が増えないことが期待されています。

〈出典〉厚生労働省発表

国内の重症者数の推移

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

2022年 3月 第164号

呼吸器内科

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
～重症化が生死の分かれ目～

この2年、我々はこの病気に翻弄されてきました。しかし現在は、治療方針がある程度定まり、新薬の開発も進んでいます。また、ワクチンの効果がある程度あることもわかってきました。感染しないことが一番ですが完全に防ぐことはできません。日常生活で三密を避けること、ワクチン接種を受けることが重要ですが、早期診断・治療が重症化させないポイントです。感染したかなあと感じた時には、できるだけ早くお近くの医療機関に相談してください。

(呼吸器内科 部長 安東 優)



Web 県病健康教室

テーマ:みんなで支える「がん治療」

「進行期がんに対する治療」 呼吸器腫瘍内科 部長 森永 亮太郎

「がん治療における薬剤師のかかわり」 薬剤部薬剤師 尾崎 仁美

「がん患者さんへの看護師のかかわり」

・がん治療の現場から

外来化学療法室看護師 東田 直子

・がんに伴う症状の緩和を目指して

緩和ケアセンター看護師 後藤 夕里江

「ソーシャルワーカーどんどん利用してください!!」

患者総合支援センターソーシャルワーカー 折原 薫

視聴の方法1

※大分県立病院ホームページから

- ① 大分県立病院ホームページを **検索**
- ② **来院される方へ**を **クリック**
- ③ **来院される方へ TOP**を **クリック**
- ④ 来院される方へお知らせ **一覧を見る**

県病健康教室(ビデオ視聴)のご案内



視聴の方法2

※YouTubeから



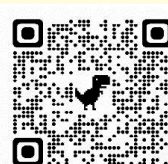
大分県立病院

大分

大分県立病院
チャンネル登録数

視聴の方法3

※QRコード



問い合わせ先:教育研修センター